

## 編集 後記

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、受動喫煙防止対策が国の主導で進められています。第65巻・第11号には、原著3編と資料1編が掲載されましたが、そのうち2編は受動喫煙に関する論文であり、時宜を得た興味深いものです。

受動喫煙に関する論文のうち秋山らの論文では、喫煙者における受動喫煙の他者危害性の認識と禁煙への関心を評価し、自身や他者への健康影響を認識している人は、禁煙への関心が高かったことが報告されています。このことは、喫煙者における受動喫煙の他者危害性に対する認識が、受動喫煙防止対策に有用であることを示唆しています。また、町田らの論文では、受動喫煙規制に関する新聞記事が分析されており、「たばこ白書」の改訂や国の規制強化策が議論され始めた2016年秋頃から記事が急増していることが示されています。また、内容としては、受動喫煙防止に関する国内外の取組みや受動喫煙の健康影響に関する記事が多かったとしています。受動喫煙に関する記事の増加により、喫煙者における受動喫煙の健康影響に関する認識の改善や禁煙につながるものが望まれます。

また、本号では、安達らが、産後1か月の褥婦における睡眠とメンタルヘルスとの関連を報告しています。近年、産後うつ病など周産期女性のメンタルヘルスが、虐待予防などの観点から注目されています。著者らは、初産婦、経産婦ともに、睡眠に問題を抱える人のメンタルヘルス指標が悪かったことを報告しています。産後は、授乳の関係で、睡眠の「量」と「質」が悪化しやすい訳ですが、こうした問題にしっかり対処することが重要といえそうです。

本号の資料としては、中村らによる川崎市におけるリアルタイムサーベイランスと感染症発生動向調査の関係が報告されており、報告数には強い相関を認めています。リアルタイムサーベイランスは、リアルタイムに更新されることやインフルエンザの型別が判明する点で強みがあることから、両サーベイランスを相補的に利用することが有用であるとしています。

日本公衆衛生学会は、日本の健康問題を俯瞰して対策を考える重要な役割を担っていると思います。会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

(関根道和)

## 次号予告 (第65巻・第12号)

### 原著

- 若年層と高年層における世代内/世代間交流と精神的健康状態との関連……………根本裕太, 他  
 医学研究に関する個人情報保護・研究倫理関係法令等の体系, 適用関係及び適用除外についての調査研究……………荒木和夫, 他  
 大都市部在住の高齢者における孤食の実態と食品摂取の多様性との関連……………田中泉澄, 他

### 公衆衛生活動報告

- 熊本地震後超急性期から亜急性期における保健所の災害対応活動……………劔 陽子, 他

### 資料

- 産後1か月までの母親の疲労感に影響する要因の検討……………秋本美加, 他